

2023年度

科目名称	作業療法評価学実習
授業コード	AE265
英語名称	Clinical Assessment in Occupational Therapy Laboratory
学期	2023年度後期
単位	1.0
担当教員	小橋 一雄 (医療科学部), 深澤 敦 (医療科学部), 竹嶋 理恵 (医療科学部), 長谷川 辰男 (医療科学部), 関谷 宏美 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では、身体、精神、または生活に「障害を持つ対象者がよりよい生活を送ることを支援するために必要不可欠である作業療法評価の実習を行う。学生は、解剖学、生理学及び臨床医学で学んだ知識や、作業療法基礎評価学に加えて、作業療法評価学 で学んだ検査・測定・分析の目的、意味、および実践技術をもとに演習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	担当教員は、脳卒中及び骨折、神経難病などの患者を対象に臨床経験を積み、日々作業療法を研鑽している。この講義では、身体及び精神、生活の特徴について評価及び治療体験を活かして講義及び実習を行う。
到達目標	カリキュラムポリシーに掲げる「基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ科目【専門科目】」を学ぶために、以下の3つを目標とする。 1) 対象者の障害に応じた適切な検査・測定法を理解し、目的と意義を説明することができる。 2) 対象者の障害に応じた検査・測定を的確に実施することができる。 3) 対象者に応じて、作業療法評価を適切に実施することが可能になる。 また、医療専門職及び研究者倫理に関する規範意識として、専門職の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で取り組むことができる
計画・内容	1.2) 協調性の知識と評価 担当教員：小橋 3.4) 姿勢・バランス・平衡 担当教員：小橋 5.6) 臨床における姿勢・バランス・平衡 担当教員：深澤（講義及び実技）小橋（実技） 7.8) 脳血管障害及び外傷性脳損傷における作業療法評価 担当教員：長谷川 9) 脊髄損傷における作業療法評価 担当：長谷川 10.11) 臨床における脳血管障害、脊髄損傷の評価 担当教員：関谷 12.13) 評価のまとめ 担当教員：小橋 14.15) 事例検討学習1（情報収集） 担当教員：竹嶋 16.17) 事例検討学習2（レントゲン 3DCT 脳画像） 担当教員：竹嶋 18.19) 事例検討学習3（面接 問診） 担当教員：竹嶋 20.21) 事例検討学習4（評価測定） 担当教員：竹嶋 22.23) 評価のまとめ 担当教員：竹嶋

2023年度

授業の進め方	<p>1) スライド、配布資料、教科書を用いて講義を進め、代表的な検査・測定・分析について指導する。 2) 具体的な実施技術を獲得するため、随時、各種検査・測定・分析法の実技を行う。 3) 事例検討学習では、作業療法協会作成のDVDを用いて臨床推論できるよう学習する</p>
能動的な学びの実施	<p>授業は、個人ワーク、ペアワーク、グループワークを用いて、アクティブラーニングを用いて、検査技術、評価の視点を身につけていく。対面型授業ができない場合には、課題資料、参考動画などを用いて学習する。</p>
授業時間外の学修	<p>事前に授業で行う範囲について教科書などを基に予習しておくこと（毎回1時間）。 また授業後の復習は、教科書や授業で配布した資料をもとに、翌日と一週間後に行うこと（毎回45分）。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 標準作業療法学 作業療法評価学（医学書院 5985円）2017</p> <p>【参考書】 作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学（協同医書出版社）2009 作業療法評価学 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト（メジカルビュー社）2015</p>
成績評価方法と基準	<p>筆記試験(100%)により評価する 評価基準は、到達目標に記載した内容の理解度による。 遅刻・早退・欠席をする場合には、事務室にある理由書に記入し提出すること。 理由書のない遅刻・早退は欠席となる。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>基本的には全体的な総評をメールなどを通してフィードバックするが、必要に応じて、個人に対して直接フィードバックする。</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照のこと。</p>
留意事項	<p>本科目では、臨床医学系科目や作業療法基礎評価学等で学習した関連科目をもとに、臨床現場や実習に即した作業療法の評価や思考過程を学ぶ。 また、機能障害の測定技術や解釈のみでなく、障害が生活や健康に及ぼす影響までを含めた患者の全体像を捉え、評価を選択できるよう思考過程を身につける。</p> <p>実技に適した服装で参加すること。 参考書は随時紹介する。</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>非対面授業の場合 【授業の進め方】 1) ZOOMなどオンラインシステムを活用して、スライド、配布資料、教科書を用いて講義を進め、代表的な検査・測定・分析について指導する。 2) 実施技術を獲得する場合は、可能な検査については、オンライン授業で実施するが、不可能な検査については対面化のとなった時点で集中講義などとして実施する場合がある。 3) 学習の最後にgoogleフォームに回答する。</p> <p>成績判定 対面型授業が不可能な場合には、課題の提出状況（20%）と期末試験の結果（80%）で成績を判定する。 なお、課題が当日提出されない場合は、欠席扱いとする。期末試験は、googleフォームを用いて行う。</p>